

四日市大学／四日市看護医療大学／暁高等学校(3年制)／暁中学校・高等学校(6年制)／暁小学校／暁幼稚園

AKATSUKI GAKUEN

暁学園報

vol.254

Autumn 2023

Newsletter

秋号



入試説明会実施中
学園HP全面リニューアル

新しいこと、続々
暁へ集え



学びの改革と ローリングストーン

喜岡 渉
暁学園理事長



西洋の諺に“A rolling stone gathers no moss.”というのがあります。日本では「転石苔むさず」と翻訳されていますが、苔(moss)むした石にわび・さびを感じる日本文化特有の美意識もあって、どちらかというとローリングストーンはネガティブな感覚で捉えられています。そう言えば、日本には「石の上にも三年」という諺もありました。

昔ローリングストーンズというロックバンドがまだ現役の頃、カリフォルニア大学の研究室仲間とこの諺の解釈について盛り上がったことがあります。その場に居合わせたイギリス人とドイツ人は苔に対するイメージが日本人と似通っているためか、何事もこころと変える人は決して成功しないとの解釈で一致しましたが、それに対してテキサス出身のアメリカ人は、絶えず活動している人こそ常に清新でいられると全く異なる解釈で反論しました。アメリカ文化特有の価値観ではChangeありきであり、Challengeが何よりも尊ばれていることを実感しました。そのためか、カリフォルニア大学では基礎分野の研究においてさえも、新しい変化、すなわち新しい可能性や進展を絶えず探求し続けたい限り、取り残され劣後する、と言われ続けていました。

新しい変化と言っても、変えなければならない部分と変えてはいけない部分を見極めた上でないと、いくら変化を追求しても改革に結びつかないことも多くあります。ローリングストーンは、変えるべきでない強固な岩盤の上をゴロゴロと(絶え間ない改善、調整を加えながら)転がって行く石、すなわち小規模な改善を繰り返して小さな変革を蓄積することによって大規模な変革へ至る継続的変革のシンボルと言えます。そして、この継続的変革は、社会科学の知見を借りると、想定していなかった意図や計画を超える創発的改革を生み出すことが往々にしてあります。

いま学園では学びの改革を進めようとしています。今号では、そのためのローリングストーンとなるべき一石を校種別に紹介いたします。



あけみかい

曉海会終結に向かって

1946年に暁女子専門学校を開設して、暁短期大学となり2002年に閉学となりました。

会員7,852名の同窓会『暁海会』は広報紙を発行したり活動は続いていました。新役員になり、卒業してから子育て、仕事等におわれて連絡が途絶えてしまった会員同士の絆を繋げるお手伝いができればとの願いで、新たな活動が始まりました。食事会・観劇・宿泊・各学年の同窓会への1人2千円補助等も企画しました。会を重ねる事に参加者も増え同期、先輩、後輩

の垣根を超えた交流ができました。絆が生まれ深まり、暁海の灯火があちらこちらで灯りました。

2023年6月には暁学園の地に『暁海会』の石碑を建立する事ができ、第1回、第2回の卒業生から生花も届きました。

宗村常務理事の発案にて教育棟の礼法室に『暁海の間』として暁海の名を残していただきました。

学年も学科も違いますが、同じ学舎で学んだ事で寄り添っていける友もできました。暁海会は閉じますが、様々な所で暁海の灯火が灯り続けていてくれることを願っています。

これまでの会員の皆様のご理解とご協力に対して感謝とお礼を申し上げます。



自分に問いかけることの大切さ

暁中学校創立75周年、暁中高6年制発足45周年を祝う記念式典が6月23日に本学で行われ、東京大学大学院教授の丹羽美之先生(平成4年3月卒業)から、「クイズの秘密～正解のない時代を楽しむために」をテーマとして後輩たちに向けて講演をしていただきました(熱中症のリスクを避けるためオンラインで開催)。

講演の主旨は、「クイズ(番組)には必ず正解があります。世の中には答えのない問いにたくさん出会います。その度に自分自身に問いかけ、なかなか正解にたどりつけなくても焦らずに自分なりの答えを創り出していくことを常態化させることが大切です。これは、創造的な探究学習には不可欠なファクターでもあり、既存の正解を理解したり記憶したりするのではなく、答えを自分が決めていくことを通して、これから生きる皆さん一人ひとりが未知の可能性を感知することにつながっていきます。」と言った内容でした。

中学生にも分かりやすい説明で、大先輩と貴重な時間を共有できた実に得難い経験となりました。



新カリキュラムにおける データサイエンス教育

2023年度から四日市大学は新カリキュラムをスタートさせました。建学の精神でもある学園綱領「人間たれ」と、2020年に制定した標語「Act4U(アクト・フォーユー)」を踏まえた科目編成です。新カリキュラムはゼミの強化やPBL(Project Based Learning/課題解決型学習)の活用など、実学重視の学風を強く打ち出しており、またその方法論として、データサイエンス教育を強化しています。

なぜデータサイエンス教育なのかといえば、ひとつには情報社会が急激な進展を続けているためであり、ふたつには本学の総合政策学部と環境情報学部が、「政策」や「環境」という、正解のない問題に何らかの答えを出さねばならないテーマを扱っているためです。

前者には、Society5.0などに示される情報社会の深化や、ChatGPTに代表される生成系AIの爆発的な進化などがあります。今やこのような社会変化に背を向けることは不可能ですが、かといってAIのアウトプットを無批判に信頼するような、全面的に身を委ねる姿勢も避けねばなりません。情報技術の特徴や利点・注意点を理解した上で、ELSI(倫理的・法的・社会的課題)に向きあい、適切に使いこなす能力が求められています。

後者については、例えば政策分野では、コロナ禍での自粛生活のように各人の自由と公衆衛生が対立したときにどうするのかという問題がありますし、環境の分野では、今日の地球に現れている様々な環境問題に対して、環境保全と経済活動の両立をどうするのかという問題があります。

これらの問題では、対立する価値観に「どのように折り合いをつけるのか」という実践的な問いを突き付けられることが少なくありません。このとき求められるのは、データに基づいて実態を踏まえた議論です。このため本学では、社会科学的なデータ分析を学ぶ「社会調査士」養成コースを設置するなど、かねてより文理融合的なデータサイエンス教育を進めてきました。



このような背景のもとで、すでに昨年度から文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」(MDASH)の認定を受けて教育プログラムを実施してきましたが、新しいカリキュラムでは、これをさらに発展させました。MDASHの基礎課程である「リテラシー」レベルを、学部を問わず全学生が修得しやすい科目編成としたほか、一段階上の「応用基礎」レベルの制度も整え、加えて生成系AIの活用を考える授業も試行するなど、内容の充実をはかっています。

さらに今年8月には、文部科学省のすすめるデジタル・グリーン分野の人材育成に向けた「大学・高専機能強化事業」に採択され、環境情報学部の本格的な理系化に向けた調査に着手し、データサイエンス教育の拡充に向けて全学的に取り組んでいます。



さて、ここで忘れてはならないのは、政策であれ環境であれ、データサイエンスで扱うデータの大半は、人間の行動やその結果の集積であるということです。いうなればデータには一人ひとりの「生きざま」が織りこまれていきます。かつて社会学者の見田宗介は、これを「統計的事実の実存の意味」と表現しました。数字の羅列に隠れた個々の人生に思いをはせることなしに、よいデータ分析はできません。

統計的事実の実存の意味に向き合うこと。これこそは、他者を愛し自分を愛する「人間たれ」の精神と、その実現に向けて行動する「Act4U」の思想が交差する、本学のデータサイエンス教育の特色でもあるのです。本学ではこうした教育の実践によって、知識の修得だけでなく、その先にある社会問題の解決に向けたデータサイエンス教育を実現し、新カリキュラムをより生きたものにしていきます。



四日市看護医療大学

中部地区初の 「細胞検査士養成コース」 専門科目(演習)スタート

～がん細胞を見つけ出すスペシャリストを目指して～



四日市看護医療大学看護医療学部臨床検査学科は、令和2年4月に「臨床検査技師」を目指す学科としては中部地区初の文部科学省指定養成校として開設しました。また、学科の特色として、こちらも中部地区初の「細胞検査士養成コース」が令和3年3月に日本臨床細胞学会の認定を受け、スタートしました。なお、細胞検査士養成コースのある大学は全国でも14大学だけです。細胞検査士とはスクリーナーとも呼ばれ、人体から抽出された臓器組織を精査し、悪性細胞(がん)が存在するかどうかを見極める重要な仕事を主とします。臨床検査技師のなかでも特に組織・細胞の知識、鑑別技術を必要とします。そのため、養成コースでは臨床検査技師の教育課程の126単位に加え、基礎科目と合わせ細胞検査士の教育課程として必要な26単位・1050時間の講義・演習をさらに学修しなければなりません。現在、選抜された4年生9名が養成コースに在籍し、10月に行われる1次試験に向けて猛勉強中です。1次試験合格後は実技認定試験(顕微鏡を用いた検鏡)に臨むことになります。そして息つく間もなく、2月末には臨床検査技師国家試験が控えています。養成コースの学生は皆、大変さの中にも医療職として求められている専門性をよく理解しており、「いち早くがん細胞を発見し、がん早期発見の一助になりたい」と高い志を持って勉学に励んでいます。一人に1台用意された顕微鏡を用いて、毎日、その顕微鏡をのぞき込んでいる姿が日に日に頼もしく見えてきます。養成コースの学生全員が、将来の「がん細胞を見つけ出すスペシャリスト」として医療に貢献していくことを願っています。



ベッドメイキングコンテスト開催

～看護技術のさらなる向上に向けて～

新型コロナウイルス感染症流行に伴い制限していた授業・実習等が、昨年度あたりから少しずつできるようになりました。臨地実習の必要性、大切さは皆が感じていることであり、特に1、2年生が行う基礎看護学の技術演習や実習への期待が大きくなっています。

そこで、本学、基礎看護学領域では、今年度から学生自らが学修を深めていけるよう看護技術論において、看護技術練習の成果を競うベッドメイキングコンテストを企画しました。コンテストは、総合的にきれいに実施できた「最優秀賞」、シーツの張り方がピンピンでしっかり伸ばせている「ベストテンション賞」、シーツの角の折りが綺麗な「ベストコーナー賞」の3つを学生同士で投票して決めました。

学生は、コンテストに向けて張り切って練習をし、学生同士で話し合い、協力し、お互いに実施内容を評価することで、他の学生の実施における良い点や改善点がわかり、自身の技術向上に役立てていました。コンテスト当日は、緊張した面持ちながらも、練習した環境整備とベッドメイキングを披露していました。

さらに、基礎看護学では、今年度から「ヘルスアセスメント」の授業において、血圧測定技術評価を行います。これまでは、学生同士で測定を行っている場面を教員が評価していましたが、教員が患者役や臨地実習の指導者役となり血圧測定場面のロールプレイを実施します。教員が患者役ということで、学生が患者役の時よりも緊張感や臨場感がアップするため、臨地実習に向けて、自己学修の促進につながると考えています。



暁 高等 学校

(3年制)

総合的な探究の時間 企業連携・高大連携

～各学年の取り組み～

1学年では6月に、「人はなぜ働くの?～社会で必要な力とは～」をテーマとした講演を、株式会社四日市事務機センター代表取締役の佐野様に行っていただきました。「働く」ことの目的や意義について、職業観の育成を図るという目的で、「企業が求める人材」、「仕事のやりがい」、「変化の多いこの社会で生きていくための力」などについて講演をしていただきました。実際の企業活動を通して感じられたことや想いを熱く語っていただき、生徒たちは普段とは違う生き生きとした表情で真剣に聞き入り、講演の後に生徒が積極的に質問したりするなど、実りある時間となりました。



2学年では7月に、課題を発見し解決策を模索するような探究活動を行い、自らの考えを客観的に表現する能力を育成するという目的で、地域課題に取り組んでいる四日市大学の先生方に力を借りながら、今年初めて研究室訪問を実施しました。47名の生徒が13の研究室を訪問しました。大学の先生にテーマの狙いを伝え、それについての調べ方や地域課題や他地域との比較などの助言をいただいたり、また、信憑性のある情報の検索法なども教えていただいたりして、今後の探究活動の一步目としてどのようなことをすべきかを習得することができました。

3学年では7月に、看護医療系の生徒を中心に27名が高大連携授業の一環として大学の講座を体験するために、学園のアルパちゃんバスで四日市看護医療大学を訪問しました。看護学科は「医療現場での必要なコミュニケーション」、臨床検査学科は「臨床検査技師の仕事を経験しよう」という演習授業で、実際にグループに分かれて対話をしたり、器具を使つての採血体験や超音波検査体験を行いました。看護・臨床検査の両学科について様々なことを学び、今回の貴重な経験を活かして今後の進路に繋げていってもらえると思います。



進路探究

「暁高校 第2回ようこそ先輩」

～多方面で活躍している先輩から課題発見のきっかけを得る～

進路探究のため、昨年度に引き続き、実社会で活躍している先輩をお呼びして、6月に2年生を対象に「第2回ようこそ先輩」を実施しました。今回は食品・化学・医療・運輸といった各業種から4名の先輩方(1名は新幹線が運転見合わせのためzoom)をお迎えし、仕事内容やそこに至るまでの道筋を語っていただきました。高校時代をどう過ごしていたのか何をすべきだったのかといった話もあり、在校生にとっての良いアドバイスとなりました。卒業後の進路は考えていても、さらにその先まで具体的にイメージできる場面は多くないので、今日の講演は在校生にとって将来と向き合う良い機会となりました。



理科教育の活性化 特別教育活動に参加



～理科部のフィールドワークの一環でキャンプへ～



理科部は、キャンプを通して実際に自然と触れ合い、自然を大切にしたいと思う心を育み、好奇心や想像力を養うことを目的として、8月9日、10日と1泊2日の夏のキャンプ合宿を岐阜県養老町で実施しました。初日は15時に集合し、16時からサイエンスクッキング、18時半に食事、21時から星空観察、22時に就寝。翌日は6時起床、6時半から早朝昆虫採集と散歩(グリーンエクササイズ)、7時半に朝食を準備して8時半に朝食。その後は片付け、掃除、生き物採集などをして自由に過ごし、11時に解散しました。今年から朝明川へ魚を観察に行き水生昆虫の採集をしたり、泊りのキャンプをするなど、フィールドワークを積極的に行っています。

暁 中学校・高等学校

(6年制)

英語授業の取り組み Uncover A Whole New World!

～新しい世界を知ろう～



6年制では、今年度からケンブリッジ大学出版の『Uncover』を使って、中学1年生の英語の授業を実施しております。色鮮やかなテキストや充実したデジタル教材には、生徒の関心を引くための工夫が施されています。中学1年生とえば、楽しかった小学英語から中学英語への移行段階でつまづく生徒もおり、英語学習への動機づけが上手くいかないことがあります。しかし、今年度の中学1年生は英語学習に対して積極的に取り組む生徒が多いように思います。

『Uncover』のテキストの語彙や表現は決して簡単ではありませんが、たとえ知らない語彙が多くて英語の理解が不十分であっても、思考を止めず、ペアやグループでの活動を通して互いに一生懸命サポートし合う姿が見受けられます。

自分の身の回りのこと、家族や友達、学校生活、クラブ活動、スポーツ、食事、世界の暮らしなどについて、英語圏や非英語圏を含む地域の情報を知識として得ることができ、英語を通して自分の知らない世界に会うチャンスとなっています。遠い世界で暮らす同年代の子どもたちの生活や世界のニュースを見聞きし、生徒たちは驚きの表情を見せてくれます。生徒にとって、英語は新しい世界を知るためのツールであり、『Uncover』は英語学習への効果的な動機付けとなっています。

『Uncover』は音声指導と発話指導が中心になる傾向がありますが、本校では、ノートに文章や語句を書く練習にも力を入れており、4技能をバランスよく学ぶことができるよう心がけています。生徒の高まりつつある学習意欲を大切に、今後も授業を進めていきたいと思えます。

【教材の概要】

世界で撮影された魅力的なDiscovery Education™のビデオを通して、教室にしながら世界の文化や生活について学べる中高生向けの教材です。自分を表現する力を着実に身につけます。

【教材の特徴】

- 美しい映像だけではなくレベルに合わせて吹き替えられたナレーションを収録
- ケンブリッジ大学英語検定(Key[KET], Preliminary[PET])の準備教材としても最適。
- Online WorkbookでICTを活用、先生や学校でオンラインによる学習者の学習進捗状況や成績などの一元管理が可能。



暁 小学 校

「ことば」の授業(言語技術教育)の新設



暁小学校では昨年、令和4年度に「ことば」の授業を新設し、本年度は2年目の授業を展開しています。「ことば」の授業は2年生から5年生を対象とすることを計画しており、今年度は2年生と3年生が週に1時間受講しています。

「ことば」の授業と言うと、単語や熟語の意味、あるいは文法を学習する時間と捉えられそうですが、暁小学校で行っている「ことば」の授業は、「言語技術」を学習する時間となっています。

「言語技術」という言葉は一般的に使われるものではありませんので、聞き慣れない方も多いかと思いますが。そ

こで、今回、暁学園報の紙面をお借りして、この「言語技術」教育の概要や学習の目的、そして暁小学校で行っている言語技術教育「ことば」の授業についてご紹介をさせていただきます。

【言語技術教育とはなにか】

言語技術とは、英語“Language Arts”の訳語にあたり、文字から語彙、綴り方、文法、さらに聞き方、話し方、読み方、書き方、考え方までを包括的に含み、言語を操るための全ての技術の総称です。これは、古代ギリシャ発祥のインクラテス・メソッドに端を発する言語の効果的な利用を目的とする方法であるため、ギリシャ文化の恩恵を受けた欧米やその周囲の言語文化圏に影響を与え、長い年月の間に体系化され、現在に至っています。その結果、世界の多くの国々において母国語教育のカリキュラムとその内容がほぼ共有されています。つまり、アメリカでもアルゼンチンでもフランスでもドイツでも、教科「国語」の中身は言語技術であり、それはちょうど、言語が異なる国でも、数学のカリキュラムの組み立てや解き方が共通されていることとよく似ていると言えます。

つまり、言語技術教育とは、おおまかに言えば人間形成の核を担う言語を、子どもの発達段階に応じてスキルを積み上げさせ、最終的に社会で役立つ人間として育成すべく体系化された言葉の教育です。(※引用)

【言語技術教育の目標】

言語技術教育の目標は大きく4つあります。

- ① 自立してクリティカル・シンキング(Critical thinking)ができるようになること
- ② ①を用いて自立して問題解決する能力を育成すること
- ③ 考えたことを口頭・記述で自在に表現できるようにすること
- ④ 自国の文化に誇りをもつ教養ある国民を育てること

これらの目標達成のため、さまざまな場面で沢山の質問を子ども達にあびせてクリティカル・シンキングをする機会を与えます。算数や理科、社会、道徳においてもその発達年齢に応じたクリティカル・シンキングができるよう働きかけます。

また、考える行為において、もう一つ重視されているのがクリエイティブ・シンキング(Creative thinking)です。これは、創造的思考で、皆とは違った、だれのまねでもない独自の考えを持つことが推奨されます。

さらに、見たり、聞いたり、読んだり、考え整理したことを表出するための方法として、話すためのスキルと書くためのスキルが指導されます。

【暁小学校の「ことば」の授業】

暁小学校で行っている言語技術教育は、つくば言語技術研究所(所長:三森ゆりか氏)の指導のもとで行われています。カリキュラム、教科書ともに暁小学校に合わせたものを使用し、実際に授業を行う教員も同研究所において70時間ほどのトレーニングを受けた上で授業を行っています。



暁 幼稚園

「音を楽しむこと」からひろがる世界

子どもたちの周りにはいろいろな音であふれています。雨の音、枯葉の上を歩く音、包丁で野菜を切る音、セミの鳴き声、風船が割れる音、車が走る音など…。今年度より、子どもたちに身の回りの音にもっと耳を傾け楽しんでもらいたいという思いから、月に1回、「音遊び」の活動を取り入れることにしました。

講師の先生は、四日市少年少女合唱団の指導兼ピアノ伴奏をしてみえる音楽心理療法士の水谷由佳子先生。各クラス20人ほどの子どもたちがホールに集まり、水谷先生の奏でるピアノの音に合わせて、自由に歩いたり走り回ったり、ジャンプをしたり、音楽に素早く反応しながら体を動かしたりします。時には、床の上に横になって目を閉じてリラックスタイム。どの子どもニコニコしながらうれしそうに取り組む様子が見られます。



この「音遊び」の活動には、「リズムを感じること」「体を思い切り動かして心を開放させること」「ピアノやいろいろな楽器の音、先生の声に耳を傾けること」「音を聴いて自分の体を自分でコントロールすること」「友達とのセッションで音が重なる面白さを共有すること」など、子どもたちの成長を助けるいろいろな要素が含まれています。このような活動を繰り返し取り入れる中で、いろいろな音やリズム、メロディに数多く出会わせ、子どもたちの五感をくすぐり、リズム感やバランス感覚を身につけていって欲しいと願っています。また、他にも、活動に夢になって取り組むことや耳を澄ませて音を聴くことで集中力が養われたり、音を聴いてイメージを膨らませたり自ら音を創り出したりすることで思考力や創造力、友達と一緒に活動したり曲を演奏したりすることで協調性やコミュニケーション能力など、いろいろな力を育むことができると期待しています。これは、本園が大切にしている「非認知能力」「生きる力」の育成にもつながると考えます。

「音遊び」には、子どもの可能性を引き出すおもしろさがたくさん詰まっているようです。



小学校への繋がりをスムーズに

暁幼稚園では、暁小学校の児童と交流したり1年生の教室で授業を受けさせてもらったりして、子どもたちが小学校へ進むことを楽しみに思えるよう取り組みを進めています。ここ3年ほどはコロナ禍のため中断されていましたが、今年度から再開することにしました。

5月には、年長組(らいおん組)の子どもたちが幼稚園バスに乗って暁小学校へ行き、5年生の児童とゲームをしたり、一緒にフリスビーを作って飛ばしたりして交流しました。5年生の児童の中には暁幼稚園を卒園した子どもも多く、まるで兄弟姉妹かのように優しく接してくれていました。年長組の子どもたちもおんぶや抱っこをしてもらったり、紙皿で作ったフリスビーに好きな絵を描かせてもらったりしてとてもうれしそうでした。帰りには、門のところまでたくさんのお兄さんお姉さんたちが見送りに来てくれました。年長組の子どもたちもバスの中から一生懸命に手を振る姿が見られ、心に残る交流となりました。



また、6月には、暁小学校の1年生の教室で、1年生の担任の先生から算数科「どちらがおいしい」の授業を受けさせてもらいました。前回の交流会とは雰囲気違ってとても緊張した様子でしたが、年長組の子どもたちが挙手をして発表したり自分の名前を丁寧に書いたり45分の授業に最後まで集中して臨んだりしている姿を見て、園での日々の取り組みが子どもたちの成長に繋がっていると確信しました。



3学期には、年中組の子どもたちと4年生の児童との交流会を予定しています。

オープンキャンパス・入試説明会〈10月～12月〉※詳細は各校HP参照

暁高等学校(3年制)

親子説明会イブニング 第2回	10/27(金)
入試問題解説会・保護者対象説明会	11/12(日)
親子説明会イブニング 第3回	11/18(土)

暁中学校・高等学校(6年制)

中学校入試問題解説会	10/22(日)
高校説明会・入試問題解説会	11/3(金・祝)
中学校個別相談会&School Tour	11/18(土)

暁幼稚園

体験説明会(1歳児親子)	10/30(月)・10/31(火)
体験説明会(満3歳児・2歳児子ども・2歳児親子)	11/1(水)・11/2(木)

入学試験〈10月～12月〉※詳細は各校HP参照

四日市大学(全学部共通)

公募制推薦A日程	出願期間:11/1(水)～11/8(水)	試験日:11/11(土)
公募制推薦B日程	出願期間:11/27(月)～12/7(木)	試験日:12/9(土)
指定校制推薦	出願期間:11/1(水)～11/7(火)	試験日:11/11(土)
クラブ推薦A日程	出願期間:11/1(水)～11/9(木)	試験日:11/25(土)
クラブ推薦B日程	出願期間:11/27(月)～12/5(火)	試験日:12/9(土)
AOII期	出願期間:11/27(月)～12/7(木)	試験日:12/9(土)

四日市看護医療大学

総合型選抜(臨床検査学科のみ)	出願期間:10/5(木)～10/18(水)	試験日:10/21(土)
学校推薦型選抜	出願期間:10/23(月)～11/6(月)	試験日: 基礎テスト方式 11/10(金) 小論文方式 11/11(土)
育成会奨学生選抜 前期日程	出願期間:10/23(月)～11/6(月)	試験日:11/10(金)
社会人等特別選抜	出願期間:10/23(月)～11/6(月)	試験日:11/11(土)

暁中学校

帰国生入試	出願期間:12/4(月)～12/18(月)	試験日:12/23(土)
-------	-----------------------	--------------

暁小学校

出願期間:10/16(月)～10/25(水)
入学検定 親子面接:10/28(土)または10/29(日)
入学学査:11/5(日)

学校法人 暁 学園

[学園報 秋号 vol.254]

発行日 / 2023年10月13日

発行 / 学校法人暁学園

〒512-8538 四日市市萱生町238 TEL 059-337-2345

学園HP / <https://www.akatsuki.ed.jp>



暁学園公式キャラクター
アルバちゃん